



大阪市立大学商学部
交通論（後期月曜3限）
1回目／10月2日
湯川創太郎

本日の主題「オリエンテーション」

- 交通論とは
- 本講義で学ぶ事
- 評価について
- 授業計画(スケジュール)
- 内容調整のための事前アンケート

1. 交通論とは —交通論とは—

- 我々の生活の身近に存在し、かつ不可欠な存在である「交通」の成り立ち、構造、問題点と分析方法などを研究する学問。
- 企業活動で言うと、「公共交通を運営する会社（鉄道会社、バス会社）、物流を担う会社、輸送機器を製造する会社、道路や鉄道を建設する会社建設会社に資材を提供する会社」などが関係。
- 行政活動で言うと、「道路や鉄道、公共交通を整備、監督する業務（国の場合国土交通省などが主に担う）」が関係。特に道路の維持管理は、市町村でワンフロアを占めるような大所帯である事が多い。

1. 交通論とは

—交通論の必要性 その①—

⇒ただ、「生活の身近に存在する、不可欠だ！」というだけでは弱いので、もう少し、交通論の意義と云うのを見てみよう

（これは産業概論でお話した時にも事であるが）

『一つの産業に過ぎない交通論が大きく取り上げられるのか、「コンビニ経営論」「テーマパーク経営論」のようなものと別格に取り上げられているのか？』

という疑問が当然出るであろうし、これにこたえる事が出来ることが、交通論を学んだ、と言い張る際には重要になろう…

1. 交通論とは

—交通論の必要性②—

前頁の疑問に対する回答

⇒現代の人々は、人・モノ・情報等の移動を前提として生活を営んでいて、分析の需要が大きい。

⇒商品として提供を考える際に交通という財は少し特殊(生産と消費の同時性、規模の経済性、鉄道/船舶/航空/自動車といった異なる交通モードの存在、外部性)で公的セクターの役割が大きかったり、「単純に競争」とはいかなかつたりする。公的セクター、民間セクター双方でこれらの知識を有し、適切な判断が出来る専門家の役割が大きい。

⇒この為に、交通論という学問に意味が出てくる

1. 交通論とは

ゆっくりクリーンにパリを楽しむ「カーフリーデー」、広範囲で開催

10/2(月) 10:19配信

AFPBB News

https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20171002-00000011-jij_afp-env

キーワード

- ・ヨーロッパの交通政策
- ・フランスの交通政策
- ・モータリゼーション
- ・交通と環境
- ・観光と交通

(歴史地区という言葉に注目)

- ・運賃政策

(どうやって誘導するか?)



1. 交通論とは



エールフランス旅客機がカナダで緊急着陸、エンジン損傷で

10/2(月) 9:02配信 ロイター

https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20171002-00000011-reut-bus_all

キーワード

- ・航空輸送の関係性
- ・国際民間航空機関
(航空における国際組織)
- ・航空機産業
- ・航空規制緩和
- ・LCC



1. 交通論とは —交通論の必要性③—



...最近では観光における専門家の需要が高まり、「観光学」が学問として成長している。文化を異にする世界各地の人々が交流するようになり、彼・彼女らをもてなし、そのインフラを整備するためには、高度な知識の体得が不可欠であるからで、そのあたりは交通と類似している。また、この観光論でも交通の知識を有する事が重要。

...交通の場合は、戦前や高度経済成長期のインフラ整備を的確に行うために必要であった、という要素が大きかった。現在では、「既存のインフラをどのように維持するか」、「既存のノウハウを元に海外でインフラをどのように整備するか」が重要な話題となっている。



1. 交通論とは

—交通論の隣接科目—



- 交通経済論(経済学部向け科目:より経済分析に特化した科目)
- 交通地理学(文学部向け科目:交通とそれを取り巻く地域を包括的にみる科目)
- 交通心理学(文学部—心理—向け科目:交通事故予防、交通事故解析のために、運転者の心理を分析)
- 交通計画(工学部—主に土木、環境システム—向け科目:技術者としてコンサルティングや自治体に入る際の基礎知識を教える科目)
- 海運論、航空論などの経営学部向け具体論、物流論、通信論
- 観光論、観光マーケティング論

2. 本講義で学ぶ事 —大まかな授業方針—

- 上記「交通論とは何か」を踏まえて、交通の特性、交通政策、交通産業、グローバル化と交通を理解していく。
- 一般的に、交通論（経済・経営学部の交通論）では、民間と公（企業活動と公共政策）と交通の関係を論じ、「民間にも限界があるが、公にも限界がある」という事で『規制の必要性、規制緩和の必要性』を説く事が多い。
- 本授業でもそれに準拠した授業を行うが、それに加えて最近ますます重要になっている住民と民間との関係や、異なる社会経済環境下にある海外でこれらをどのように扱うべきかにも着目した授業を行っていく。

2. 本講義で学ぶ事 —大まかな授業方針—

- 昨年は『「交通政策入門」:大井先生(大分大学)後藤先生(近畿大学)』を用いたが今年は、講師独自の内容が多くなる予定なので、教科書としては指定しない(ただし、授業計画の下線部はこの本に準拠した内容である。)
- 昨年は2ページのレジюмеを基本としたが、少し分量を増やす予定。

2. 本講義で学ぶ事 —到達目標と成績評価—

- 到達目標：交通と隣接領域に関する、知識・分析手法（ここでは、どんな分析をするかの大枠）の体得を行い、社会に進出した時の諸活動の糧となる実力を涵養する。
- 成績評価：中間レポートと期末試験により実施する。この他、本日も課すが、授業内での感想用紙、アンケートなども評価対象とする。概ね 授業内の感想用紙（不定期／その次の回での追加提出可）15%、中間レポート（1回）30%、期末試験55%とする。



3. 講義計画



＜第一部：基礎編：交通と交通政策＞

②10月16日 交通産業と交通政策 I

③10月23日 交通産業と交通政策 II

④10月30日 海外の交通政策の事例

＜第二部：理論編：交通の性質の理論的理解＞

⑤11月06日 市場の失敗、政府の失敗、外部性※

⑥11月13日 市場の失敗、政府の失敗、外部性※

※⑤／⑥回目のどちらか1回休講の予定

⑦11月20日 交通政策と規制緩和

⑧11月27日 交通の費用負担（運賃制度、補助）

< 第三部: 応用編 >

- ⑨ 12月04日 交通インフラ整備の在り方(国内編)
 - ⑩ 12月11日 交通インフラ整備の効果の分析手法
 - ⑪ 12月18日 発展途上国の交通問題とインフラ整備
 - ⑫ 1月15日 交通と環境問題
 - 補講(※) 地域交通の問題と地方活性化(1)
 - ※ 1月17~19日のいずれかに実施予定
 - ⑬ 1月22日 地域交通の問題と地方活性化(2)
- < まとめ >
- ⑭ 1月29日 まとめ

4. アンケート

- ・レベル調整のため(その他、授業時間の調整等)に使うために、アンケートの記入をお願いします(小テストのような設問もありますが、あまり正誤を気にせず記入してください)。
- ・配布の「コミュニケーション・小レポート用紙」に学籍番号・氏名・日付と、レジюмеに記載された質問に対する回答を記入してください。



アンケート記入後、本日は終了です。
お疲れ様でした。

